

JR東海労なごや

2010年11月29日 No. 826
JR東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：教宣部

「名松線復旧」地元の要望が 聞き入れられたぞ！

『11月24日の定例記者会見で、山田社長は昨年10月の台風18号の被害で家
城～伊勢奥津間が不通となっていた名松線について「自治体が治山治水工事を行い、
以後山と水の維持管理を行えば、JR東海は一部不通区間の復旧をする」と発表しま
した。』

私たちは、名松線が一部不通になり、そのまま廃線になる可能性があるとして、現
地視察、聞き取り調査、連合三重への連帯の要請、そして多くの情報の発行を行って
きました。特に昨年訪れた美杉地区では、「JR会社は安全確保の話のみで、私たち
の話を聞こうとしてくれない」「美杉地区が
削られてしまう」との危機感の声を聞いて
きました。

私たちは、地方交通線はそこで働く社員
の雇用の維持とともに、幹線からのび、地
方から都市部へ向かうための地域の手段と
して存在して、地域住民にとって重要な足
としてかせないものであり、幹線へのア
クセスになるものであると考えます。そして、
過疎化が進む地方にとってそこに住む老人
や学生にとっては、まさに生活手段である
と考えます。

今回の記者会見により、名松線は廃線の
危機から復旧への道筋が見いだされました。
私たちは今後も「申入れ」を行い、地元の方
々とともに早期の完全復旧を目指してい
きます。

